

PMI® (プロジェクトマネジメント協会)

注意) この試験変更は 2011 年 8 月 31 日
から適用されます。

プロジェクトマネジメント・プロフェッショナル
(**PMP®**)

試験内容の概要

2010 年 9 月

Published by: Project Management Institute, Inc.
14 Campus Boulevard
Newtown Square, Pennsylvania 19073-3299 USA.
Phone: +610-356-4600
Fax: +610-356-4647
E-mail: customercare@pmi.org
Internet: www.PMI.org

©2010 Project Management Institute, Inc. All rights reserved.

"PMI", the PMI logo, "PMP", the PMP logo, "PMBOK", "PgMP", "Project Management Journal", "PM Network", and the PMI Today logo are registered marks of Project Management Institute, Inc. The Quarter Globe Design is a trademark of the Project Management Institute, Inc. For a comprehensive list of PMI marks, contact the PMI Legal Department.

目次

はじめに.....	1
試験内容の概要.....	3
ドメイン、タスク、および知識とスキルの記述.....	4
パフォーマンス・ドメイン I : プロジェクトの立上げ.....	5
パフォーマンス・ドメイン II : プロジェクトの計画.....	6
パフォーマンス・ドメイン III : プロジェクトの実行.....	8
パフォーマンス・ドメイン IV : プロジェクトの監視・コントロール.....	9
パフォーマンス・ドメイン V : プロジェクトの終結.....	11
横断的な知識とスキル.....	12
付録A.....	13

はじめに

プロジェクトマネジメント協会（PMI[®]）はプロジェクトマネジメント・プロフェッショナル（PMP[®]）として知られているプロジェクト・マネジャーの専門職資格を提供します。PMIの専門職資格試験の開発プロセスは、他のプロジェクトマネジメント資格試験の開発プロセスとは距離を置いたものです。PMIはこのプロセスを資格認定業界のベストプラクティス（例えば「教育用および心理的な検査に関する標準」）と整合させています。PMIの資格は、国際的に認知されているISO 17024標準に照らした認定を受けています。^(A)

このプロセスの重要な要素として、有効で信頼できる専門職資格の試験を提供しようとする組織はテスト開発の基礎として役割概説研究（RDS; Role delineation study）を用いるよう指導されています。このプロセスでは、実践者のコンピテンスを査定し、プロジェクト・マネジャーの役割に関する産業全体標準に沿った実践に必要な知識、タスク、スキル各々の特徴、重大性、頻度のレベルを決定するために、知識とタスクから得られるガイドラインを利用します。

RDSは試験の妥当性を確かなものにします。妥当性確認を行えば、試験の結果が実際にプロジェクトマネジメント専門職としての機能に必要な一定の知識とスキルを適切に測定し評価するものと確信できます。このように、RDSは各試験が実際に環境の観点からプロジェクトマネジメント専門職のあらゆる要素を正当に測定することを保証するのです。

PMP資格保有者は、自分の専門的資格がテスト開発のベストプラクティスに従って開発されており、こうした標準を確立した実践者たちからのインプットに基づいたものだという自信を持つことができます。プロセスの詳細は付録Aを参照してください。

PMP試験は専門職資格獲得をリードしている活動としてきわめて重要なものです。したがってPMP試験がプロジェクトマネジメント専門職の実務慣行を正確に反映させることは急務なのです。試験のあらゆる設問は適任のPMP資格保有者たちによって作成されて十分にレビューされ、二つ以上の学術的文献で確認されます。これらの設問を「PMP試験内容の概要」に照らしてマッピングし、妥当な試験のための適切な質問数が整っていることを確認します。

PMIはプロフェッショナル試験サービス（PES; Professional Examination Service）部門を有して、そこでグローバルな「PMP試験内容の概要」を作成しています。1941年以降、プロフェッショナル試験サービス（PES）は広い範囲の職業にまたがる組織に対してあらゆる種類の査定と助言のサービスをしており、それは専門職の免許交付や資格認定、トレーニング、継続的専門職教育を支援するものでした。

最後に注意していただきたい重要なことですが、「PMP試験内容の概要」はPMBOK[®]ガイ

^(A) 米国教育研究教会、教育測定に関する国家審議会、米国心理学協会と共同で公開しました。PMPはまた、米国国家規格協会（ANSI）によって、国際的に認知されているISO 17024標準（適合性標準—個人の認定を運営する団体への一般的要求事項）に照らした認定を受けています。

ドと共通性があるといっても、先に述べた RDS 研究の関係者は PMBOK®ガイドに縛られていません。その人たちに課せられたのは個人の役割を定義することで、その役割とはプロジェクトをリードし指導するとともにその仕事に役立つ経験と適切な資源を使うというものだったのです。

PMBOK®ガイドにおいても「PMP 試験内容の概要」で要約されているドメイン、タスク、知識、スキルの多くはカバーされていますが、「PMP 試験内容の概要」に独特のものもいくつかあります。試験のために勉強する受験希望者が PMBOK®ガイドの最新版を参考文献の一つとして期待するのは確かでしょうが、さらにプロジェクトマネジメントに関するその他のいくつかの最新のタイトルを読むこともお勧めします。PMI メンバー用の情報源である eReads と Reference は、PMP 試験開発に利用されているタイトルに関する優れた情報源になります。

試験内容の概要

次の表は各ドメインから試験に用いられる設問の比率を示しています。これらのパーセンテージは、各ドメインとタスクに関連して多肢選択形式の試験で取り上げるべき質問の数を決めるために使われます。

ドメイン	テスト項目の比率
I. プロジェクトの立上げ	13 %
II. プロジェクトの計画	24 %
III. プロジェクトの実行	30 %
IV. プロジェクトの監視・コントロール	25 %
V. プロジェクトの終結	8 %
合計	100%

ドメイン、タスク、および知識とスキルの記述

レポートのこの章は、役割概説研究で定義されたドメイン、タスク、および知識とスキルの記述を含みます。

各ドメインは PMP 認証の進展を通して測定されるタスクを含みます。加えて、ドメインには、能力をもってそうしたタスクを遂行するのに必要となる知識とスキルを含みます。

- I. プロジェクトの立上げ
- II. プロジェクトの計画
- III. プロジェクトの実行
- IV. プロジェクトの監視・コントロール
- V. プロジェクトの終結

パフォーマンス・ドメイン I : プロジェクトの立上げ

ドメイン I	プロジェクトの立上げ – 13 %
タスク 1	所与の前提条件や制約条件下で新しい製品やサービスの実現可能性を評価するために、入手できる情報、およびスポンサー、顧客、その他の専門家などとの会議に基づいてプロジェクト評価を行う。
タスク 2	プロジェクトへの顧客の期待を満たすために、業務上及び法令順守上の要件に基づいてプロジェクトのハイレベルの範囲を定義する。
タスク 3	期待を整合してプロジェクトに対する支持を得るために、ブレインストーミングやインタビューやその他データ収集技法を用いて主要ステークホルダーの分析を実施する。
タスク 4	プロジェクトの限界を特定し実現のアプローチを提案するために、現行の環境と過去のデータと専門家の判断に基づいてハイレベルのリスク、前提条件、および制約条件を特定し文書化する。
タスク 5	プロジェクトの範囲、マイルストーン、および成果物を文書化するために、ステークホルダーの要求事項をさらに収集し分析してプロジェクト憲章を作成する。
タスク 6	プロジェクト・マネジャーに割り当てられた権限を公式のものとしてプロジェクトに対するコミットメントを得て受け入れてもらうために、スポンサーと顧客（必要な場合）からプロジェクト憲章の承認を取り付ける。
	知識とスキル ^(B) <ul style="list-style-type: none"> • 費用便益分析 • ビジネス・ケースの策定 • プロジェクトの選択基準（例：コスト、実現可能性、影響度） • ステークホルダー特定の技法 • リスク特定の技法 • プロジェクト憲章の要素

^(B) ドメイン特有の知識とスキルに加えて、複数ドメインで用いられる横断的な知識とスキルも規定します。横断的な知識とスキルの一覧は「横断的な知識とスキル」の章にあります。

パフォーマンス・ドメインⅡ： プロジェクトの計画

ドメインⅡ	プロジェクトの計画 – 24%
タスク 1	プロジェクトの成果物を確定するために、プロジェクト憲章と過去のプロジェクトの教訓および要求事項収集技法（例：計画セッション、ブレインストーミング、フォーカス・グループ）に基づいて詳細なプロジェクトの要求事項、制約条件、および前提条件をステークホルダーとともに評価する。
タスク 2	プロジェクトの範囲をマネジメントするために、範囲を分解して WBS をチームとともに作り上げる。
タスク 3	プロジェクトのコストをマネジメントするために、見積り技法を用いてプロジェクトの範囲に基づく予算計画を作成する。
タスク 4	プロジェクトの納期どおりの完成をマネジメントするために、プロジェクトの時間表と範囲と資源計画に基づいてプロジェクト・スケジュールを作成する。
タスク 5	効率の良いプロジェクト組織を作り、資源の活用とマネジメントの方法についての指針を提供するために、プロジェクト・チーム・メンバーの役割と責任を定義して人的資源マネジメント計画書を作成する。
タスク 6	プロジェクトの情報の流れをマネジメントするために、プロジェクトの組織構造と外部ステークホルダーの要求事項に基づいてコミュニケーション計画書を作成する。
タスク 7	必要なプロジェクトの資源が得られることを確実にするために、プロジェクトの範囲とスケジュールに基づいて調達計画書を作成する。
タスク 8	欠陥の発生を防止し品質コストを削減するために、プロジェクトの範囲と要求事項に基づいて品質マネジメント計画書を作成する。
タスク 9	変更を追跡しマネジメントするために変更を処理する方法を定義して変更マネジメント計画書を作成する。
タスク 10	プロジェクト・ライフサイクルを通して不確実性をマネジメントするために、プロジェクト・リスクの特定、分析、および優先順位付けを行いリスク対応戦略を定義して、リスク・マネジメント計画書を作成する。
タスク 11	プロジェクト実施の承認を得るために、主要ステークホルダー（必要な場合）に対してプロジェクト計画書を提示する。

<p>Task 12</p>	<p>プロジェクトの開始を発表しプロジェクトのマイルストーンを伝え他の関連する情報を共有するために、あらゆる主要ステークホルダーとのキックオフ・ミーティングを実施する。</p>
	<p>知識とスキル^(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 要求事項収集の技法 ● WBSのツールと技法 ● タイム・予算・コストの見積り技法 ● スコープのマネジメント技法 ● 資源計画プロセス ● ワークフローの図式技法 ● 組織図の形式と利用法 ● プロジェクト計画の要素、目的、および技法 ● コミュニケーション計画の要素、目的、および技法 ● 調達計画の要素、目的、および技法 ● 品質マネジメント計画の要素、目的、および技法 ● 変更マネジメント計画の要素、目的、および技法 ● リスク・マネジメント計画の要素、目的、および技法

^(c) ドメイン特有の知識とスキルに加えて、複数ドメインで用いられる横断的な知識とスキルも規定します。横断的な知識とスキルの一覧は「横断的な知識とスキル」の章にあります。

パフォーマンス・ドメインⅢ：プロジェクトの実行

ドメインⅢ	プロジェクトの実行 – 30 %
タスク 1	プロジェクト実施の成功を確実にするために、調達計画書に従い、外部に委託する成果物を含めてプロジェクト資源を獲得しマネジメントする。
タスク 2	プロジェクトの成果物を予算内かつ期限内に達成するために、プロジェクト計画書に定義されているタスクを実行する。
タスク 3	必要な品質標準に従って作業を遂行するのを確実にするために、適切なツールと技法を用いて品質マネジメント計画を実施する。
タスク 4	プロジェクトの要求事項を満たすために、変更マネジメント計画書に従って承認済み変更を実施する。
タスク 5	プロジェクトにおけるリスクの影響を最小化するために、リスク・マネジメント計画書に従って、承認済みのアクション（例えば迂回策）を実施する。
タスク 6	チーム・メンバーに対して指導、メンタリング、トレーニング、および動機付けを行うことによってチームのパフォーマンスを最大化する。
	知識とスキル ^(D) <ul style="list-style-type: none"> • プロジェクト監視のツールと技法 • 作業記述書の要素 • プロジェクト・スケジュール内のWBS要素の相互作用 • プロジェクト予算化のツールと技法 • 品質標準のツール • 継続的な改善のプロセス

^(E) ドメイン特有の知識とスキルに加えて、複数ドメインで用いられる横断的な知識とスキルも規定します。横断的な知識とスキルの一覧は「横断的な知識とスキル」の章にあります。

パフォーマンス・ドメインⅣ：
プロジェクトの監視・コントロール

ドメインⅣ	プロジェクトの監視・コントロール – 25 %
タスク 1	どのような差異でも識別して定量化し、承認済み是正処置を実行し、関連するステークホルダーに伝えるために、適切なツールと技法を用いてプロジェクトのパフォーマンスを測定する。
タスク 2	更新されたプロジェクト目標を満たすのを確実にするために、プロジェクト計画書を更新し承認済み変更をチームに伝えることによって、プロジェクトの範囲、スケジュール、およびコストに対する変更をマネジメントする。
タスク 3	顧客の要求事項を満足するために、適切なツールと技法（例：テスト、検査、管理図）を用いて、プロジェクトの成果物が品質マネジメント計画書に確立されている品質標準に適合することを保証する。
タスク 4	プロジェクトにおけるリスクの影響をマネジメントするために、新たなリスクを特定し古いリスクを査定し適切な対応戦略を決定して実行に移して、リスク登録簿とリスク対応計画書を更新する。
タスク 5	プロジェクトのスケジュールとコストと資源に対する影響を最小化するために、適切なツールと技法を用いて、課題登録簿上の是正処置を査定し未解決の課題に対する次のステップを決定する。
タスク 6	プロジェクトがビジネス・ニーズと整合するのを確実にするために、プロジェクト状況をステークホルダーに伝えてフィードバックを得るようにする。
	<p>知識とスキル^(E)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パフォーマンスの測定と追跡の技法（例：EV、CPM、PERT） ● プロジェクトのコントロール限界（例：閾値、許容限界） ● プロジェクト・パフォーマンスの指標（例：工数、コスト、マイルストーン） ● コスト分析の技法 ● 差異分析と傾向分析の技法 ● プロジェクト計画書のマネジメントの技法 ● 変更マネジメントの技法 ● 統合変更管理プロセス

	<ul style="list-style-type: none">• リスクの特定と分析の技法• リスク対応の技法（例：移転、軽減、保険、受容）• 問題解決の技法（根本原因分析を含む）• 報告の手順
--	---

(E) ドメイン特有の知識とスキルに加えて、複数ドメインで用いられる横断的な知識とスキルも規定します。横断的な知識とスキルの一覧は「横断的な知識とスキル」の章にあります。

パフォーマンス・ドメインV：プロジェクトの終結

ドメインV	プロジェクトの終結-8%
タスク 1	プロジェクトの範囲と成果物が合致したことを確認するために、スポンサーや顧客との作業によりプロジェクトの成果物の最終的受入れを得る。
タスク 2	プロジェクト終結を促進するために、プロジェクト計画書によって指定されたステークホルダーに成果物の所有権を移転する。
タスク 3	公式のプロジェクト終結を伝えてこれ以上の義務がないことを確定するために、一般に受け入れられている実務慣行を用いて債務的・法的・事務的な終結を得る。
タスク 4	あらゆるステークホルダーに最終的なプロジェクト状況を提供するために、すべての終結関連情報とプロジェクトの差異となんらかの課題を含んだ最終プロジェクト報告書を配布する。
タスク 5	組織の知識ベースを作ったり更新したりするために、徹底的なプロジェクト・レビューを通して得た教訓を整理する。
タスク 6	組織の知識を保ち、法定の要求事項を順守し、将来のプロジェクトや内外の監査で使う可能性に備えたデータの利用可能性を保証するために、プロジェクトの文書と材料を保管する。
タスク 7	プロジェクトの評価を支援し顧客関係を強化するために、顧客のフィードバックを得ることにより、プロジェクト終了時における顧客満足度を測定する。
	知識とスキル ^(F) <ul style="list-style-type: none"> • 契約の終結の要件 • 基本的なプロジェクト会計原則 • 終結手順 • フィードバックの技法 • プロジェクト・レビューの技法 • 保管技法と保管状況 • 法令順守（状況・組織） • 移転の計画の技法

^(F) ドメイン特有の知識とスキルに加えて、複数ドメインで用いられる横断的な知識とスキルも規定します。横断的な知識とスキルの一覧は「横断的な知識とスキル」の章にあります。

横断的な知識とスキル

全ドメイン	横断的な知識とスキル
	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的な傾聴 ● ブレーンストーミング ● コンフリクト解決の技法 ● 文化の感性と多様性 ● データ収集の技法 ● 意思決定の技法 ● ファシリテーション ● 情報マネジメントのツールと技法と方法 ● リーダーシップのツールと技法 ● 交渉 ● 口頭と文書でのコミュニケーションの技法、チャンネル、および応用 ● <i>PMI 倫理・職務規定</i> ● プレゼンテーションのツールと技法 ● 優先順位付けや時間のマネジメント ● 問題解決のツールと技法 ● プロジェクトマネジメント・ソフトウェア ● 関係のマネジメント ● ステークホルダーの影響度の分析 ● 対象（例：チーム、ステークホルダー、顧客）を狙ったコミュニケーション ● チームの動機付けの方法

付録 A：役割概説研究（RDS）のプロセス

責任事項の定義

資格認定試験の開発の第一のステップは、資格を認定される人の責任事項を定義することです。有効な内容のテストを開発する以前に、プロジェクトをリードし指導する人が実際に行っていることの内容を知るべきです。妥当な試験としては職務上の重要分野ごとに質問を取り出して、より大切で重要で関連性が強いと考えられる実施領域（ドメイン）に多くのテスト用の質問が位置づけられるように規定します。プロジェクトをリードし指導する個人の役割は二つの重要なフェーズによって定義します。一つは現在その役割にいる人が責任事項を定義するフェーズ、もう一つは特定された責任事項をグローバルな尺度で検証するフェーズです。

2009 年から、PMI は PMP 資格認定のためのグローバルな役割概説研究（RDS）の委託をはじめました。PMI 認証ガバナンス構造を表している運営委員会が RDS のプロセスを主導しました。プロジェクト・マネジャーで構成されるプロジェクトのタスクフォースが運営委員会の監督を受けながらプロジェクトの作業の実施の責任を負いました。このタスクフォースは地球上のほとんどの地域を含み、業界、職位、経験などの多様性を示すものでした。その他にもいくつかのグループが RDS のプロセスの形成と整形に寄与しました。それは、プロジェクトマネジメントを活用して成功している組織の代表者、学界の代表者、認定教育機関（R.E.P.）等です。プロジェクト・マネジャーたちは、プロジェクト・マネジャーの更に大きなサンプルを調査する前に、タスクフォースの作業を独立した立場でレビューして情報の試行をする責任も負いました。

研究の参加者は、プロフェッショナル教育サービス（PES）の指示に従い、実践分野（ドメイン）と、役割を定義する義務と責任の広範なカテゴリーとに関するコンセンサスを得ました。同時に、コンピテンス実績に必要となるタスクと、それらのタスクを遂行するに必要な知識やスキルに関するコンセンサスを得ました。

パネリストによって特定された責任事項の検証

パネルにおいて開発された研究と内容の概要の妥当性を確保するために、パネル作業へのフィードバックを要求する調査表が、世界中のプロジェクトマネジメント実践者たちを対象として送付されました。調査表は世界中の数千人のプロジェクト・マネジャーに対してグローバルに配布されました。PMI は 98 の国ですべての主要産業を代表する参加者からのしっかりした調査の回答を受領しました。この結果は、コンピテンス実績とそのタスクの頻度が重要だという結論を得るための統計的な有意性を PMI にもたらしました。実践者たちはまた、プロジェクト・マネジャーとして仕事をしたときや知識やスキルを獲得したときなどに感じた重要度に応じて知識やスキルを格付けしました。

テストの計画の作成

回答者たちの格付け結果に基づいて試験の詳細計画が策定され、各ドメインとタスクにおいてきちんと試験に取り入れるべき質問の数が明らかにされました。より重要で、重大で、関連

性ありと調査回答者に格付けされたドメインとタスクにおける質問が、試験としては多くなるようにするのです。

検討の結果、テストで採点対象となる 175 の質問を、各ドメインに次表に示すように配分すべきということになりました。残りの 25 問は、プリテストとしてドメインを通して分散させ、候補者のスコアとしてはカウントされません。プリテスト項目があるので、PMI では、テストの質問データ・バンクに収めるのに先立って問題のパフォーマンスをよりよくモニターできるのです。

ドメイン	問題数比率
1. プロジェクトの立上げ	13%
2. プロジェクトの計画	24%
3. プロジェクトの実行	30%
4. プロジェクトの監視・コントロール	25%
5. プロジェクトの終結	8%
採点対象質問の総数	175
非採点対象（プリテスト）質問の総数	25
質問の総数	200